

Voilà! C'est la vie!

ボ ラ セ ラ ビ

カメルーンからこんにちは
2024年1月 N°22 (vingt et deux)

JICA 海外協力隊 2021 年度 3 次隊 小島由紀子

2年間のJICA海外協力隊の任務を終えて、日本に帰国しました。1年でいちばん暑い時期であるカメルーンから寒さが増してくる時期の日本に帰ってきて、ひさしぶりの冬をあじわえるうれしさと、冬の寒さにおどろきも感じています。
同じ地球にあり、同じ空の下でつながっているカメルーンと日本ですが、まったくちがう文化の中でおもしろいことがたくさんあり、活力あふれるカメルーンのパフィアの人たちからたくさんのことを学びました。

カメルーンに友だちがいっぱい!



パフィアの子どもたち



ようち園の先生たち



アフリカ布屋さん



2年間で、たくさんの人たちと出会い、助けてもらいました。学校のことでなく、カメルーン的生活や料理、パフィアのことば...他にも大切なことをたくさん教えてもらいました。気づいたら、カメルーンに友だちがいっぱいできていました★



初等教育省にごあいさつ



教育事務所でいっしょに働いた人たち



パフィアの家族たち



仕立て屋さん

最後のお別れのとき、なみだを流すと「がまんだよ。泣かないよ。」といろいろな人に言われました。悲しくても人には なみだを見せないのが、カメルーン人のようです。またいつか会えることをねがって、「またね!」とえがおでお別れをしました。遠くはなれたカメルーンに、またね!と言える友だちがたくさんできたことも、たからものです♪

今は、いろいろな方法で世界とつながることができるようになりました。JICA海外協力隊だけでなく、近くに住んでいる外国の方、世界のことを知れる場所などを見つけて、みなさんも世界中に友だちができたらすてきですね😊

JICA海外協力隊は 20歳から 69歳までチャレンジできます。もっと知りたい人はぜひしらべてみてね。



カメルーンから日本へ ただいま！



協力隊のなかまといっしょに、2日間かけて飛行機で帰ってきて、ひさしぶりの日本。いろいろなことを感じました…。

道がきれいに整備されている
から、たいらで歩きやすい！
お年寄りでもたくさん歩ける

季節が大きく変わるから
暑さも寒さも
たくさん楽しめる

街灯がたくさんある。夜
も明るい道を歩ける！

● **だれもが 早く・かんたんに・快適に すごせる環境がある！**

機械がなんでもし
てくれる！ レジも
病院の受付も…

車がきれいに一列になら
んで走っているから、安心し
て歩道を歩ける！

安定した電気があるから、夜
もゆっくり家の中ですごせる
ストーブも使える

● **ひとのきょうりやモノや情報のえらび方を考えて生活することが必要だな**

なんでも包装されて
いるから、ゴミが
たくさん出る

道ですれちがった人
とのあいさつがあまり
ない…さみしいな

1つのモノを買うのに
種類がたくさんある。
どれにしよう…

情報がたくさんあ
る！本当に必要が
情報はどれかな？

日本に帰ってきたからこそ、あらためて感じるカメルーンのこと…。



いつでも どこでも だれとでも
みんながあいさつ！人が温かい
「こんにちは。元気？」

時間を守るのがむずかしい！
発表会の日の登校時近くに、子
どもが半分も来ていない…とか

食べ物も道具も、自然のものや
地域で育てたものをたくさん使
う。いつでも地産地消！

ゴミはポイ捨てか燃やす
だけ。プラスチックゴミ
がたくさん土の中に…

「ない」ものを探すのではなく、「ある」
もので工夫して何とかする！物がこわ
れてもまずは自分で直してみる。

日本もカメルーンも、それぞれの国の文化や気候、風土に合わせて、よりよい暮らしのために工夫して生活しています。日本の良いところと、カメルーンで教えてもらったすてきなところ、どちらもお手本にしながら、私も楽しく豊かな生活を送りたいと思います。

Voilà! C'est la vie!

そうさ！これが人生さ！

このおたよりのタイトルにもしていた『Voilà! C'est la vie!』（そうだよ、これが人生さ！）。この言葉を2年間、カメルーンの人たちから何度も聞きました。

- 停電が続いて電気のない生活が長くなると「C'est Bafia!!」（これがバフィアさ!!）。
- 待ち合わせの時間に友だちが1時間おくれて来ても、「C'est Camerounais」（これがカメルーン人だよ）
- イベントの会場が、イベントの日の朝に変わっても、C'est Cameroun!」（これがカメルーンだよ!）

日本だったら、ニュースになったりけんかになったりしそうなことばかり。最初は、どうにもできないことをあきらめている言葉なのかなと思っていました。でも、本当はそうではなく「こんなこともあるさ！人生なんていろいろあるさ！こんなもんだよね」と、笑って受け入れている言葉なのではないかと、今、私は思います。心をゆったりかまえて、大変なことも笑って受け入れる、このカメルーンの人たちの心のもちかたを私も大切にしたいです。

「知る」ことから始める国際協力・友だちづくり

お別れするとき、ある先生から「あなたは、熱心に話を聞いて私たちのことを知ろうとしてくれた。」と言われました。「だから、あなたと仕事をする時間が大切だったよ。」と。相手を知ろうとしたことが、その先生と協力して仕事をするということにもつながっていたことに気づきました。

また、カメルーンの街の『たったひとりの日本人』だった私は、「日本のことを知っているよ!」と言ってくれたり、日本語を覚えてくれる人がいたりしたことが、とてもうれしかったです。それだけで、えがおになりました。きっと、日本にいる外国の方も同じではないでしょうか。

国際協力・国際交流には、募金や物の支援などの方法もあるかもしれません。でもまずは、自分のまわり、地域・街、日本、世界には、どんなところがあって、どんな面白いことがあるのかな？どんな世界があるのかな？相手の国はどんなことに困っているのかな？と『知る』ことから始めてみてもいいのではないかと思います。私もまずは、もっともっと北海道や日本、知らない国や地域を知ることから、はじめてみます！



なにごとにも 経験に勝るものはなし

テレビやインターネット、本などで見て分かっているけど、実際に自分で見て、触れて、聞いて、感じてみないとわからないことがいっぱいあるのだなと実感するほど、カメルーンではさまざまな学び・気づきがありました。そして、自分がこうして経験したこと、五感を使って感じたことは、人から聞いたことや知識よりも、ずっと自分の中に大きく残っています。私のように海外に行くことだけでなく、みなさんがきょうみのあることに勇気をだして挑戦してみる！それが大事。好きなこと・きょうみのあることにチャレンジするチャンスがあったら、ぜひ飛びこんでみてください。きっと、世界が変わるはず！



2年間、カメルーンだより『Voilà! C'est la vie!』を読んでくださり、ありがとうございました♪

このおたよりが、みなさんにとって、カメルーンのこと・世界のことを知る、小さなきっかけになっていたらうれしいです！
Merci beaucoup de m'avoir lu pendant deux ans.

